



隼人族の森を渡る風

上床 利秋

<https://douzou.jp/>

連載エッセイ 第 110 回

鹿児島島の北海道に自然つららを観に行く

2月9日の国分の街の天気予報は-3℃だったので伊佐市大布計地区に自然発生する大つららを見に行つた。普段、国分や鹿児島市の気温よりも4℃ほど布計は気温が低いのであるが、この日は-6℃を車の温度計は示していた。

旧山野線トンネル跡の近くにそのつらら群は発生する。

普段から崖岩の上部からポチポチと流れ出る伏流水が気温の低さで巨大なつららに変貌して出現すると推測している。

おそらく鹿児島県では自然発生する最も巨大なつららだと思われる。

実は私がこの布計つららをみたのは今回が初ではない。昔を振り返ること約42年前、山野中学校教諭時代に当時独身だった同僚と5人で早朝見学しに行ったことがある。その場に落ちていたつららの破片を学校に持ち帰った。職員朝会にはギリギリ駆け込むか遅刻？して、その後ホームルームで生徒たちに見せて面白がった記憶を思い出す。やはり、当時よりも今のつらら群は若干小さくなったように思えるのは気のせいだろうか。

ところで、ひさびさに布計つららを見に行った話を昔同行した元体育教師にライン連絡してみた。すると彼は校長先生から会議に遅刻したことで皆注意を受けたことを憶えているそうだ。そりゃあそうだろうな。でも私にはそのところの記憶がない。何故だろうか？ちょっと気になる思い出になった。

2026年2月



42年前の布計つららと教員仲間たち



令和8年の布計つららと筆者